

ヒトと犬が

互いに学んだこと



エヴァーグリーン・
ドッグ・フィールド
代表 森 一彦

先月号で「フリー・M・マッソンの「ヒトは犬のおかげで人間になった」を紹介しましたが、今回もその中から人と犬が長い間共生してきてお互いに学んだことをご紹介いたします。

◆寛容さⅡ犬は人間の社会的地位には全く関心がなく、ほとんどの犬には偏見がない。人間は人種や宗教や思想信条で差別する事はあっても、犬は犬のことを犬として認めることができる。

◆やさしさⅡ相手の身体的特徴によって差別することはなく、たとえ認知症患者であっても、人ならば辟易するような匂いを発する患者であっても顔に顔を近づけてキスして回ることが出来る。

◆好奇心Ⅱ人間も犬も「新しいもの好き」である。人も犬もすぐに退屈する動物なので、犬を家に二人きりにしておくことは好ましくなく、外出時にはできるだけ犬も一緒に連れて行くのが好ましい。



◆パートナーシップⅡ犬は人と協力関係を結ぶことに長けている。例えば人が何かを指さした時、指されたものを見るのは犬だけである。犬は人間が操る言語を理解していて、人が自分だけに向けて話しかけていることを理解

している。野生動物はどのように受け取ることではなく、他の家畜は違う応じ方をする。これは単なる服従を超えたある種のパートナーシップと言って良いだろう。

◆思いやりⅡ人間と犬は、共に暮らしてきた中で、憎んだり、恨んだりしないことを覚えた。犬は犬に対して他人の不幸を喜ぶ気持ちを感じない。人間には嗜虐的な人もいるが、犬は人間が感じるような憎しみや他人の不幸をよるこぶ気持ちはがない。犬と一緒に育った子供は動物にやさしくする傾向があり、犬が家族の一員として扱われるのを見て成長することで、自分と違う人間にもやさしくなることができる。

◆従順さⅡこれは家畜化された動物の究極の特徴と言える。ロシアのリュドミラ・N・トルートによる野生のギンギツネの家畜化の実験によると、野生のギツネが40年の選択交配によって、最後には尾を振り世話係の手を舐め、人間の愛情を求めようになったというものである。ギツネは家畜化の途上にある犬と同じように、飼育係に気づかうことで従順になったと言えるのである。

◆援助Ⅱ人と犬は互いに援助行動をする。人間は犬に衣食住を与え、病気になるれば獣医にも連れて行く。人が犬にしてやることはこれくらいであるが、犬が人にしてやることの多さといったら、警察犬・盲導犬・聴導犬・介助犬・発作警告犬・軍用犬・麻薬探知犬・水難救助犬・捜索救助犬・がん探知犬等々、その仕事

のなんと多岐に亘っていることか。犬は人間のために仕事をするように強制されているのだろうか。例えば人の介助について遺伝的に受け継がれた生得的な犬の行動であるとは言いがたいが、人の役に立つことをしているとき、犬の心に何がよぎっているかは不明ではあるが、犬がそのための訓練を拒絶しないのは、人と犬との長年に亘る交流の中から生まれた類まれなパートナーシップのおかげであろう。

◆笑いⅡ犬も服従の意味でニツと歯を見せて笑いの表情を作る時がある。犬を人と同じように考える作者の勝手な想像でもないし、受け取り方の問題でもなく、犬が笑うことは事実である。遊んでいるときに多くの犬が間の抜けたような笑い顔を見せるのは、飼い主の気のせいばかりではなく、純粹にうれしくて笑っているのだ。子犬に笑いかければ必ず返してくれる。子犬と人間は一緒に笑うことを身につけたのではないだろうか。人間は遊んでいる子犬をかわいいと思ひ、子犬はそう思われたがる。そこで子犬は人によるこぼせようと、それを見て人は笑い、子犬は人から笑いや楽しさを学ぶのだ。

人と犬とは共に進化し、影響を与えあってきた結果、同じ種の仲間に対するのと同じ深い感情をお互いに抱くようになりました。これほど複雑な感情をお互いに抱くのは、人と犬だけのようであり驚くべきことであります。

遊ぶ 学ぶ かかり合う...Wan倶楽部

Evergreen Dog Field

ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談

福島県郡山市熱海町高玉字抜山1-1 磐梯熱海ICから約6分

☎024-994-0811 | エヴァーグリーンドッグフィールド | 検索

福島県19郡保健第21号・訓練第5号(有) Evergreen Dog Field
登録年月日H19年4月6日 有効期限の末日H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦